

社会福祉法人せたがや櫨の木会

平成 29 年度
事業報告書

所在地：東京都世田谷区代田 1 - 29 - 5

電話：03 (5481) 1010

F A X：03 (5787) 4051

設立年月日：平成 14 年 2 月 28 日

— 目 次 —

1	法人概要	1
2	役員構成	1
3	職員配置	1
4	利用者状況	2
5	事業実績	2
	(1) 法人経営の適正化	2
	(2) 利用者サービスの向上を目的とした人材育成	2
	(3) 新規事業の運営	3
	(4) 防災対策及びリスクマネジメントの実践	3
	(5) 広報活動の充実と情報共有	3
6	規程類の制定及び改正	3
7	理事会・評議員会の開催状況	4
8	委員会等の開催状況	4
9	その他	7
	・監査等	7
	・セミナー等	7
	・事故・苦情報告	8

1. 法人概要

名 称	社会福祉法人せたがや樫の木会
所 在 地	世田谷区代田一丁目29番5号
設立年月日	平成14年2月28日

2. 役員構成

区 分	定 数	学識経験者	地域の 福祉関係者	施設長	財務諸表が 読める者	社会福祉及び障害者 福祉に精通る者	合 計
理 事	7	1	4	2			7
監 事	2	1			1		2
評議員	8					8	8
合 計	17	2	4	2	1	8	17

3. 職員配置

	事務局	千歳台福祉園	下馬福祉工房	わくわく祖師谷(生)	わくわく祖師谷(B)	大原福祉作業所	上町工房	どんぐりホーム上町	喜多見夢工房	用賀福祉作業所	ヘルパーステーション樫の木	プレイ&リズム希望丘	相談支援センターあい	合 計
事務局長	①													①
施設長・所長		1	1	1		1	1	(1)	1	1	(1)	1	(1)	8 (3)
主 任		2	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1	12
支援員・指導員 相談員・世話人	1	17 ⑦	8	10 ②	8 ⑧	5 ②	4 ①	1 ⑪	4 ③	2 ②	1 ③	5 ⑩	①	61 ⑤⑩
(常勤換算)	-	23. 1	8	11. 6	13. 5	6.2	4.8	-	5.6	4.6	-	-	-	
事 務 員	2	1	1	1 ①		①		①	①				(1)	5 ④
看 護 師	②	②	①	(2)		(1)			(1)	(1)				⑤ (5)
栄 養 士		①	①											②
登録ヘルパー											105			105
休 職 者									1	2	1		1	5
合 計 (登録ヘルパーを除く)	3 ③	21 ⑩	11 ②	22 ⑪ (2)		7 ③ (1)	6 ①	2 ⑪	7 ④ (1)	6 ② (1)	3 ③ (1)	6 ⑩	2 ① (1)	96 ⑥⑪ (7)

○は非常勤職員の数、()は兼務の数

4. 利用者状況

	千歳台福祉園		下馬福祉工房		わくわく祖師谷		大原福祉作業所		上町工房		喜多見夢工房		用賀福祉作業所		どんぐりホーム上町		プレイ&リズム希望丘		ヘルパーステーション樫の木		相談支援センターあい		合計	
	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	登録	登録	登録	定員	現員		
生活介護	45	49			20	23																	65	72
就労継続B型			35	36	40	42	31	30	25	25	25	20	22	23									178	176
共同生活援助 短期入所															5	5							5	5
児童発達 放課後等デイ																	20	21	59					
居宅介護 移動支援																			12	124				
相談支援 児童相談 居宅介護																					198	8	1	
計	45	49	35	36	60	65	31	30	25	25	25	20	22	23	5	5	20	80	136	207	248	253		

5. 事業実績

平成29年度は経営組織のガバナンスの強化及び事業運営の透明性の向上等を目的とした社会福祉法人制度改革を踏まえて、社会福祉法人としての責任と役割を果たすとともに、財務状況の適正化を図ってきた。また、新ミッションに基づき、利用者サービスの向上を図るため人材育成に取り組み、人材の確保及び職場定着を目的として、残業削減等、職場環境向上の諸課題への取り組みを強化してきた。これらを重点的に進めるとともに、上町工房の分場として運営してきた喜多見福祉作業所について新たに分室を設置し、喜多見夢工房として事業を開始し円滑な事業運営に取り組んできた。また、利用者の高齢化への対応として平成28年12月に介護保険事業を開始した相談支援センターあいの円滑な運営を推進し、相談事業の充実に取り組んだ。

(1) 法人経営の適正化

社会福祉法人制度改革に伴い大きく役割が変わった理事会及び評議員会体制を整備し法人経営の適正化に取り組んできた。また、経営企画会議を中心に、法人の課題を明らかにして将来進むべき方向性について検討するとともに、財務状況を分析し、健全経営に取り組んできた。さらに諮問機関としての委員会機能を活性化し機能的な法人運営を行っていく。

(2) 利用者サービスの向上を目的とした人材育成

新ミッションを軸として、法人の研修体系に基づいて平成28年度から実施した階層別

研修をさらに充実させて実施した。これらの研修を通してサービス向上を目的とした職員育成を推進していくとともに、同じく平成 28 年度より導入した人事考課制度について、制度の検証や考課者訓練等を実施し、適正な運用を図ることにより、職場内のコミュニケーションを促進し、職員がやりがいを持てる職場環境づくりを進めてきた。なお、人事考課制度の円滑な運営について並行して議論を進めてきており、30 年度は見直し調整を含めてさらなる充実を図っていく。

職員の労働環境の整備と職場定着

ストレスチェックを含む職員のメンタルヘルス等の健康管理を行うとともに、時間外労働の適正管理、有給休暇の取得推進、出産・育児・介護等を行う職員への支援など、労働環境を整備することによりライフワークバランスに配慮し、職員の職場定着対策を進めてきた。

(3) 新規事業の運営

利用者の高齢化への対応として、平成 28 年 12 月に介護保険事業を開始した相談支援センターあいの円滑な事業運営を行ってきた。さらに上町工房の分場として運営してきた喜多見福祉作業所について、新たに分室を設置し、喜多見夢工房として事業を開始し、円滑な運営にこぎつけた。

(4) 防災対策及びリスクマネジメントの実践

平成 28 年度にリスクマネジメント委員会が刷新した事故・苦情報告用の様式を活用し、各事業所で起きた事故等について、リスクマネジメント委員会で分析を行い、法人全体で事故の未然防止に取り組んだ。

(5) 広報活動の充実と法人内の情報共有

広報誌「かしの木」を年 2 回（春季、秋季）発行するとともに、人材獲得の補完的な役割として、法人の特色を発信するなど、ホームページの内容の充実を検討した。

6. 規程類の制定及び改正

規程等	主な内容	制定・改正日
定款細則の制定	社会福祉法人制度改正に基づく定款変更	H29.5.30 制定
経理規程の改正	社会福祉法人制度改正に伴う計算書類の取扱い・サービス区分の追加等の変更等	H29.5.30 施行 H29.4.1 適用
就業規則の改正	再雇用嘱託職員規程の制定に伴う変更等	H29.11.1 施行
再雇用嘱託職員規程の制定	再雇用嘱託職員の期間等の制定	H29.11.1 施行
経理規程の改正について	社会福祉法人制度改正に伴う社会福祉充実計画に関する事項の取扱い等の変更	H29. 11.29 施行 H29.4.1 適用
就業規則の改正	改正労働契約法による有期契約職員の無期労働契約への転換に関する改正	H30.4.1 施行

7. 理事会・評議員会の開催状況

(1) 理事会

開催日	審議事項	
第1回 H29.5.30	第1号議案 第2号議案 第3号議案 第4号議案 第5号議案 第6号議案 第7号議案	平成28年度事業報告(案)について 平成28年度決算報告(案)について 定款細則の制定(案)について 経理規定の改正(案)について 理事・監事の候補者について 役員及び評議員の報酬並びに費用弁償に関する規定について 平成29年度定時評議員会の招集事項について
第2回 H29.6.19	第1号議案	理事長の選定について
第3回 H29.10.14	第1号議案 第2号議案	就業規則の一部改正について 再雇用嘱託職員規程の制定について
第4回 H29.11.29	第1号議案 第2号議案 第3号議案	平成29年度上半期事業報告について 平成29年度上半期決算報告について 経理規程の一部改正について
第5回 H30.2.26	第1号議案 第2号議案 第3号議案	就業規則の一部改正について 平成29年度第一次補正予算(案)について 施設長の任免について
第6回 H30.3.23	第1号議案 第2号議案 第3号議案 第4号議案	平成30年度事業計画について 平成30年度予算について 管理者の任命について 理事候補者の推薦について

(2) 評議員会

開催日	審議事項	
第1回 H29.6.19	第1号議案 第2号議案 第3号議案	平成28年度決算報告(案)について 理事・監事の選定について 役員及び評議員の報酬並びに費用弁償に関する規程の制定(案)について
第2回 H30.3.30	第1号議案	役員の選任について

8. 委員会等の開催状況

<経営企画会議>

開催月日	主な検討項目
5月16日	平成29年度樫の木課題について、定款細則(案)について 他
7月11日	平成29年度の課題について 他
9月12日	10月及び11月開催の理事会の議決案件について
11月13日	地域障害者相談支援センター事業のポロ-ザルについて 他
1月29日	法人運営に家族の意見、要望を生かすための方策に関するアンケート調査結果について
3月12日	プレイ&リズム希望丘の平成30年度の予算(案)について 他

<事業所連絡会>

開催月日	主な検討・報告項目
4月11日	委員会体制、人事異動に伴う担当者の変更について 他
5月9日	備付文書・帳簿と保存年限について 他
6月6日	有期契約職員の通勤手当について 他
7月4日	処遇改善加算実績報告について 他
8月8日	再雇用嘱託職員について、障害者雇用の促進について 他
9月5日	就業規則の名称変更と再編及び一部改正について 他
10月3日	就業規則一部改正について、平成28年度上半期事業報告・決算報告 他
11月7日	宿泊時の勤務割及び時間外手当等について 他
12月5日	平成29年度賞与（年末手当）の支給について 他
1月9日	就業規則の一部改正について（再調整） 他
2月6日	「行動規範（案）」について、法人本部への繰り入れについて 他
3月6日	平成30年度委員会体制について 他

<研修委員会>

開催月日	主な検討項目
5月29日	29年度研修計画について、役割分担について 他
6月30日	初級職・中堅職：基礎編、実施内容振り返り 他
7月26日	主任級職・管理職：基礎編について 他
8月9日	主任級職・管理職：基礎編について 他
9月28日	法人セミナーについて、新人職員（中堅採用者）及び新人職員マナ研修について 他
11月30日	就業時間後の研修参加について 他
1月5日	法人セミナー及び法人必須研修について、就業時間後の研修参加について 他
2月2日	法人必須研修について、法人マナ研修について 他
3月6日	29年度研修委員会まとめについて 他

<広報委員会>

開催月日	主な検討内容
10月23日	「かしの木」第22号発行について indeedの利用準備の検討
11月29日	「かしの木」第22号発行について 寄付リフレットの修正について
2月13日	「かしのき」第22号の発行について

<リスクマネジメント委員会>

開催月日	主な検討項目
5月30日	事故報告の共有について、役割分担 他
6月26日	Shell分析を用いて4/7に起きた事故2件分析 他
7月14日	Shell分析を用いて用賀福祉作業所で起きた事故を分析 ハリカ利用者受入について
8月22日	本部の電話回線増設の件 他
9月26日	危機管理規程に関して 事業間バックアップ体制の構築について 他
12月22日	第三者委員会の反省、セミナー開催について、危機管理マニュアル作成
1月24日	危機管理規程について リスクマネジメント委員会の役割について

<衛生委員会>

開催月日	主な検討項目
6月2日	衛生委員会の目的と役割について 他
7月20日	働きやすい職場づくりのためのアンケート実施について 他
8月7日	働きやすい職場づくりのためのアンケート(最終案)について 他
10月3日	働きやすい職場づくりのためのアンケート集結果について 他
11月20日	働きやすい職場づくりのためのアンケート集計結果について 他
1月17日	ストレスチェックの結果の活用について 他
2月13日	働きやすい職場づくりのためのアンケート結果の報告について 他
3月15日	働きやすい職場づくりのためのアンケート結果について

<権利擁護委員会>

開催月日	主な検討項目
6月6日	平成28年度委員会の取り組みの共有、平成29年度で取り組む内容
6月29日	前回の確認、行動規範(案)(2)(3)の検討 その他
7月21日	前回の確認、行動規範(案)(4)の検討
8月23日	前回の確認、行動規範(案)(5)の検討
10月2日	前回の確認、行動規範(案)(6)の検討
10月30日	前回の確認、行動規範(案)①厳守事項 虐待、差別 の検討
11月30日	前回の確認、行動規範(案) 厳守事項 プライバシーの侵害、人格無視 の検討
12月19日	前回の確認、行動規範(案) 厳守事項 強要、制限 の検討
1月17日	前回の確認、行動規範(案) 見直し、まとめ
2月20日	前回の確認、行動規範(案)の検討 倫理事項・行動規範職員周知セミナーについて
3月8日	前回の確認、セミナーについて、当日の役割分担について
3月16日	法人倫理綱領、行動規範報告会

<人事制度検討委員会>

開催月日	主な検討項目
6月14日	H29年度検討課題及び優先順位の確認 他
6月28日	再雇用嘱託職員規程(案)修正 他
7月19日	年次有給休暇取扱い及びリフレッシュ休暇について 他
9月1日	就業規則の制定及び一部改正について 他
10月23日	人事考課調整会議反省点の検討
12月8日	H29年度考課者研修の日程調整と内容について
1月19日	考課者研修について 就業規則の一部改正 他
2月19日	考課者研修の振り返り 他
3月23日	顧問について 人事考課制度の見直しについて 他

<事務連絡会議>

開催月日	主な内容
4月26日	平成28年度事業報告・決算報告に係る日程について 他
3月5日	理事会日程、平成30年度予算について 他

<人事考課調整会議>

開催月日	主な内容
10月17日	平成29年度業績考課（前期分）
3月14日	平成29年度業績考課（後期分）及び行動能力考課

<第三者委員連絡会>

開催月日	主な内容
12月22日	自己紹介、事故・苦情等の報告 他

<実践報告会運営委員会>

開催月日	主な内容
6月5日	発表内容・時間検討 他
6月27日	意義の確認・募集のとりまとめ 他
10月11日	エントリーシートから発表事業所の選出 他
1月4日	エントリー資料の確認 他
3月20日	当日の反省 他

9. その他

<監査等>

開催月日	主な内容
5月14・16日	監事監査（事業報告・決算報告）
11月15日	内部会計監査（用賀福祉作業所）
12月21日	内部会計監査（相談支援センターあい）
1月26日	内部会計監査（プレイ&リズム希望丘）
3月23日	内部会計監査（せたがや樫の木会本部）

<セミナー等>

開催月日	主な内容
4月27日	法人のミッションについて
4月28日	職員倫理について
6月16日	サービス等利用計画と個別支援計画の連携
6月26日	「いいね」づくめの職員になる為に
9月28日	合理的配慮を考える
10月20日	リーダーシップとOJT
11月7日	感染症予防DVDを各事業所に配布 各事業所で演習等研修を実施
11月30日	‘伝わる’仕事術
1月26日	2事業所が日頃の実践について発表
2月13日	新人職員として感じたこと 2年目に向けて
2月16日	マナー研修
2月26日	法人の求める主任像について
3月16日	権利擁護委員会・リスクマネジメント委員会合同報告会

<事故・苦情報告>

事 故 報 告 件 数

	27年度 総数	28年度 総数	29年度 上半期
千歳台福祉園	9 (2)	13 (4)	15 (7)
下馬福祉工房	7 (7)	13 (13)	3 (3)
わくわく祖師谷	9 (8)	2 (2)	2 (1)
大原福祉作業所	3 (3)	0 (0)	0 (0)
上町工房	3 (3)	0 (0)	0 (0)
どんぐりホーム上町	0 (0)	5 (0)	1 (0)
喜多見夢工房	4 (2)	0 (0)	0 (0)
用賀福祉作業所	2 (1)	4 (0)	5 (5)
ヘルパーステーション櫛の木	1 (0)	2 (0)	1 (0)
プレイ&リズム希望丘	1 (1)	0 (0)	2 (0)
相談支援センターあい	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合 計	39 (27)	39 (19)	29 (16)

()内は世田谷区に報告した件数

苦 情 件 数

	27年度 総数	28年度 総数	29年度 上半期
千歳台福祉園	4	2 (1)	3 (1)
下馬福祉工房	2	1 (1)	0 (0)
わくわく祖師谷	1	2 (1)	0 (0)
大原福祉作業所	0	0 (0)	0 (0)
上町工房	3	1 (0)	0 (0)
どんぐりホーム上町	0	0 (0)	1 (0)
喜多見夢工房	1	1 (0)	0 (0)
用賀福祉作業所	2	3 (0)	0 (0)
ヘルパーステーション櫛の木	0	0 (0)	1 (0)
プレイ&リズム希望丘	0	0 (0)	0 (0)
相談支援センターあい	0	0 (0)	0 (0)
合 計	13 (0)	10 (3)	5 (1)

()内は世田谷区に報告した件数

平成 29 年度事業報告

法人本部

事業
評価

(1) 法人経営の適正化

- ・平成 28 年度の社会福祉法人制度改正を踏まえ、社会福祉法人としての責任と役割を果たすため新定款に基づき理事会及び評議員会を開催した。
- ・経営企画会議において法人の課題と将来進むべき方向性について検討するとともに、法人運営に家族や利用者等の意見要望を生かすための方策等についてアンケート調査を実施した。

(2) 利用者サービスの向上を目的とした人材育成

- ・法人ミッションを軸として倫理綱領及び行動規範に基づいた支援方針を確立するため、法人の研修体系に基づき、平成 28 年度に引き続き階層別研修を実施した。
- ・28 年度事業所紹介として行った実践報告会を事例に基づいた実践報告会に発展させて実施した。今後とも継続し法人全体の支援力アップにつなげていく。
- ・平成 28 年 4 月の障害者差別解消法の施行に伴い、「障害者差別解消法」及び「合理的配慮」に関する法人セミナーを 9 月に開催した。
- ・28 年度に導入した人事考課制度を着実に実施するため制度の検証や考課者訓練等を実施するとともに、運用面における問題点や調整すべき課題について検討を開始した。

(3) 職員の労働環境の整備と職場定着

- ・職員の職場定着のための働きやすい職場づくりアンケートを実施した。
- ・平成 27 年度に導入したストレスチェックを、平成 29 年度においても引き続き実施した。

(4) 新規事業の運営

- ・上町工房の分場として運営してきた喜多見福祉作業所は、新たに本場化し分室を設置して喜多見夢工房として安定的な事業を開始することが出来た。
- ・引き続き平成 31 年度の大原福祉作業所の旧守山小学校跡地への移転や、平成 30 年度報酬改定の影響、世田谷区の地域相談支援センター委託へのプロポーザル参加など、新たな課題への取り組みについて調査検討を行った。

(5) 防災対策及びリスクマネジメントの実践

- ・各事業所で発生した事故等について分析を行い法人全体で事故の未然防止に取り組むとともに、ハイリスク利用者の受け入れ、バックアップ体制、危機管理規程の制定等について検討を行った。

(6) 広報活動の充実と法人内の情報共有

- ・広報誌「かしの木」21 号（7 月号）、22 号（2 月号）を発行するとともに、広報委員会を中心として人材獲得の補完的な役割を果たす求人媒体としてのホームページのあり方等について検討を行った。

(7) その他

- ・わくわく祖師谷(就労継続支援 B 型)の利用者 1 名を、同事業所で障害者雇用として採用した。

【重点項目】

1. 支援の充実

- (1) 作業・余暇・機能訓練・クラブ・水泳・外出・宿泊などの活動を、計画的に、それぞれの利用者に合ったかたちで提供した。
- (2) 活動内容の見直しや様々な場面での選択肢の提供を行うことで、利用者の自分らしい充実した生活につなげた。
- (3) より本人のニーズが反映された支援のために個別支援計画書を改訂し、利用者に関き取りを行うなどして、30 年度個別支援計画に反映させた。

2. 人材育成・業務改善の取り組み

- (1) 新人職員に対して、引継ぎ分担表を用い計画的に OJT などを行い、育成につなげた。
- (2) 研修参加職員数：延べ 242 名（受講回数 61 回）
法人の研修制度のもと、個人別研修計画を作成し、計画的に研修を実施・受講するとともに、研修報告書の回覧や全体会議での研修報告による情報共有を行った。
- (3) 勤務時間を変更することにより、勤務時間内の会議の設定や休憩時間の確保を行い、「ワークライフバランスを考えた働き方」や「残業時間の削減」につなげた。

3. 家族等への支援・地域との連携

- (1) 家族会を 6 回開催し、事業の説明や情報の発信及び共有を行った。
- (2) 短期入所施設を利用しやすくなるよう、送迎バスのルートに、短期入所施設への送迎を組み込み、計 7 施設への送迎を行った。
- (3) 「地域で安心した豊かな生活」の実現のため、地域とのつながりを深めるため、また、利用者の生活の充実のため、地域の団体等との交流会を 7 回開催した。
- (4) 地域の方々との交流の場として、また、地区会館で活動している各サークルの発表の場として、9 月 16 日（土）に園祭「秋桜祭」を地域の方々と共に協力し開催した。
- (5) 特別支援学校生徒保護者や他事業所職員等の施設見学者を 36 名受け入れた。

4. 防災・安全管理の充実

- (1) 避難訓練：10 回
今年度初めて、一時避難所「希望丘南公園」までの避難訓練を実施した。
- (2) 災害対策として、利用者家族及び職員と災害時伝言ダイヤルや災害伝言板、メールでの連絡練習を行った。
- (3) 事故：利用者の怪我 3 件、送迎バスの事故 2 件、職員等の怪我：8 件
ヒヤリハット報告：82 件
内訳：「他傷」38 件 46%、「転倒」12 件 14%、服薬に関するミス 5 件 6%等
今後活かすべく、ミーティングや回覧等で情報共有するとともに、サービス向上委員会で傾向と対策を検討した。

【その他】

1. ボランティア・実習生の受け入れ

- (1) ボランティア人数：延べ 275 名（支援ボラ 171 名、行事ボラ 104 名）
- (2) ヘアカットボランティア：毎月 1 回（延べ 160 名利用）
- (3) 実習生等：特別支援学校等実習生 15 名、介護等体験生 12 名、介護福祉士実習生 2 名、高等学校福祉体験生 12 名。

2. 健康・食事の取り組み

- (1) 月 2 回の内科及び精神科診察、週 1 回の理学療法士による機能訓練を行った。また、健康診断、眼科検診、耳鼻科検診、歯科検診を実施した。
- (2) 試食会を 7 月・2 月に開催し、延べ 27 名の方が参加し好評を得た。また、嗜好調査を 12 月に実施し、試食会意見や調査結果を献立作成及び食事提供に活かした。

3. 事業評価の実施

- (1) 第三者評価を受審した。利用者聞き取り調査、家族アンケートを実施し、利用者聞き取り調査は、＜総合的な満足度＞として「満足」94%、「やや満足」6%（有効回答者数 39/45）、家族アンケートは、＜総合的な満足度＞として「満足」55%、「やや満足」38%（回収率 61%）という概ね良い結果を得た。

平成 29 年度事業報告

世田谷区立下馬福祉工房

事業 評 価	<p>【重点項目】</p> <p>1. 利用者支援・サービス等</p> <p>(1) 業務の標準化と職員の連携</p> <p>平成 28 年度の第三者評価で指摘された業務の標準化を進めるべく、「日中活動」「クッキー班」「ドライフルーツ班」の業務マニュアルを整備した。活動の意義や役割分担を明確にしたことで、職員が連携しやすくなり、利用者の安定につながった。</p> <p>(2) 個別支援計画の見直し</p> <p>書式をシンプルにし、年度末評価も含めて 1 枚にしたことで、利用者・家族にとってわかりやすい計画となった。年度途中に、次年度個別支援計画の年度内作成を目標に掲げたが、1 年の流れを短期間で変えることは難しく、次年度事業計画でスケジュールを明確にし、実行していくこととした。</p> <p>(3) 自主生産の広がり</p> <p>喜多見夢工房と共に、セブンイレブンへの定期的な納品を開始した。クッキーを知ってもらうだけでなく、納品時に利用者を知ってもらう良い機会になっている。</p> <p>地域の NPO 法人「〇と〇（わとわ）」との絵画ワークショップを毎月開催、利用者の作品からシールやカードをデザインし、ギフトセットに利用する試みを行った。</p> <p>授産事業収入 10,608,630 円（前年度差+412,728 円） 平均工賃 16,733 円（前年度との差異-303 円）</p> <p>2. 地域交流の充実</p> <p>(1) 見学者・ボランティア・介護等体験・インターンシップ・企業研修・中高生の福祉体験等、外来者の受け入れを積極的に行い、見られる支援・開かれた施設を継続した。</p> <p>(2) 受注品の納品・企業やイベントでの販売・公園清掃・お茶会等、地域へ出ていく活動を多数展開することにより、地域の方と顔の見える関係づくりを積み重ねていった。</p> <p>(3) 「おたがいさまフェスタ」にて、人気のクッキー教室に加え、日頃、誕生会で行っている「下馬ショータイム」を地域の方に披露した。</p> <p>3. リスクマネジメント</p> <p>(1) ノロウィルスの集団感染</p> <p>平成 30 年 1 月、年明けから施設内に急性胃腸炎が広がり、嘱託医の指示により 3 日間の休所を決定、利用者・ご家族を始め、取引業者等関係各位に多大なご迷惑をおかけする事態となった。検便の結果、ノロウィルスの感染が認められ、世田谷区障害者地域生活課及び世田谷保健所の感染症対策課・食品衛生係と相談しながら、原因究明と事後対応を進めるとともに、再発防止に向けて衛生管理体制を強化した。</p> <p>(2) 事故・苦情への対応</p> <p>事故 5 件（利用者トラブル・トイレ水漏れ 2 件・外出時の鼻血・宿泊旅行での骨折） 苦情 0 件、ヒヤリハット 22 件</p> <p>利用者に対する職員全員の共通理解、業務の標準化、職員の連携強化等が、結果として事故の減少につながった。</p>
--------------	---

平成 29 年度事業報告

わくわく祖師谷

<p>下半期事業実績</p>	<p>[利用率 (昨年度比)] 生活介護：101.5% (105.2%) 就労継続支援 (B型)：84.4% (88.2%)</p> <p>[平均工賃 (昨年度比)] 14,286 円 (11,923 円) (昨年度比 119.8%)</p> <p>[行事等] 合同・共通 一泊旅行 (横須賀・茨城方面)、忘年会、成人式、新年会、わくわく祭り 生活介護 ひまわり荘宿泊、パン教室、プール、 就労継続B型 区民ふれあいフェスタ参加、各種イベント販売</p>
<p>半期事業評価</p>	<p>1. 利用者支援・サービス等</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活介護も就労継続支援B型も一年を通して職員の退職者がいなかったことで、充実した利用者支援・サービスを提供することが出来た。職員の努力で大きな事故は無く、苦情もなかった。 <p>[生活介護]</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常活動においてプログラムの選択肢を増やしたり、年間を通して水泳やパン販売などの活動を安定的に実施し、活動内容の充実を図った。 一日外出、昼食外出、喫茶外出などの外出プランや千歳台との交流会など、地域での活動を広げることにより社会参加の機会を増やした。 様々な切り口から支援力を高めることを目的として、事業所内において勉強会を開いた。 <p>[就労継続B型]</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要な時に心理療法士の派遣を要望し適切なアドバイスを受けた。 喫茶実習の機会を増やすことで多くの利用者さんが実習経験を積むことが出来た。また、喫茶応援を通して、「自分もやってみたい」という実習意欲に繋げることができた。 工賃買い物やパン教室等、様々な分野でチャレンジできる活動を増やすことで生活の幅を広げることができた。 <p>2. 関係機関との連携、地域貢献、地域交流</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の社会福祉協議会と協力してわくわく祭りを成功させた。 介護等学生や社会福祉士実習を積極的に受け入れた事で、障害者理解を深めた。 自主生産品の販売、お祭り参加を積極的に行うことで地域交流をはかった。 地域のシンポジウムに当事者として利用者が参加したことで、施設を知ってもらい、障害者理解を深めることができた。 <p>3. 家族との連携、家族支援</p> <p>家族会 (合同 2 回、単独各 2 回)、生活介護の家族と懇親会 (2 回)、モニタリング、両事業とも希望者全員と行った。その他、必要に応じて連絡を取り合い、ご家族との話し合いの場を設けた。わくわく祭りにも家族会のお店を出店していただいたり、お手伝いの時間を調整し協力いただいた。</p> <p>4. 人材育成、職員研修</p> <p>施設内研修を充実させたことで、職員の資質の向上に努めた。昨年はあまり実行できなかった外部の研修にも積極的に参加できる体制を検討した事で多くの職員が参加できた。OJTなどが定着してきた事で徐々に人材育成の効果が現れている。今年度は正規職員、有期職員の年度途中での退職者はいなかった。</p> <p>5. 職場環境の整備、経営基盤の強化、施設整備等</p> <p>業務・サービス内容の整理と見直し、効率の運営を行ったことで超過勤務が減り、経営基盤を強化することが出来た。昨年度より一層生活介護・B型両事業の職員交流がスムーズになった事で、合同での行事をスムーズに行うことが出来、マニュアル化を図れた。今後も区と協力しながら施設の整備を行う必要がある。</p> <p><事故・苦情></p> <p>区に報告した事故 3 件 苦情は無し</p>

平成29年度事業報告

大原福祉作業所

事業
評価

【重点項目】

1. 利用者支援・サービス等

(1) 作業支援

- ・平均工賃：13,627円（28年度：14,984円、-1,357円）
- ・受託は作業種を見直し、新企業1社を開拓し、まちづくりセンターなどから比較的高単価の作業の受託に成功した結果、前年度より約16万円の収入増となった。
- ・自主生産はクッキーの大口注文が減る一方、アレルギー対応のクッキーを開発し販路を広げた。又、自家焙煎珈琲も販路が広がり、約3万円の微増となった。
- ・総収入では17.5万円の収入増であったが、利用者が3名増えたため平均工賃は下がった。

(2) 生活支援（利用率81.2%）

- ・9月の秋まつりで利用者の要望に合わせ、3年連続喫茶店とライブコンサートを行い、個々の利用者が積極的に参加できた。150名を超える集客があった。
- ・宿泊旅行ではバス2台を利用し、職員配置や行程を工夫し相性の悪い利用者と一緒にいることが辛くて、今まで参加できなかった利用者に対応した。
- ・新利用者3名が入所、1名が施設間移動で退所し現員30名となった。
- ・グループホームへの短期入所、ガイドヘルプの情報提供を5名に行った。

(3) 個別支援計画

2月中に29年度個別支援計画評価と30年度個別支援計画を作成し、利用者・家族と面談を持つ事で安心して利用者が30年度を迎えられる体制を整えた。

2. 関係機関との連携、地域貢献、地域交流等

- (1) 地域住民、民生委員、町会など数十名との勉強会、見学会などを実施して地域との関係を作り、来年度の移転に向け障害者への理解を深めた。
- (2) 社会福祉士実習生 昭和女子大1名、駒澤大学2名を23日間受け入れた。
- (3) 普連土学園などの学生ボランティアを受け入れ、社会の障害理解を促進した。

3. 家庭との連携・家族支援等

- (1) 10月、2～3月の2回、全利用者・家族と面談を実施した。
- (2) 家族会を7回実施した。
- (3) 6月に家族に向けて作業所公開日を設定し実施した。

4. 人材育成・職員研修等

職員1名が法人の新任職員研修に参加するなど、法人の研修には参加できたが、職員体制が整わず予定した外部研修を受けることができなかった。

5. 職場環境の整備、経営基盤の強化、施設整備等

- (1) 定員を26名から31名に変更して経営基盤を強化した。
- (2) 業務の効率化、意識改革を行い職員の時間外勤務を月平均5時間程度にした。
- (3) 31年度の施設移転に向け、世田谷区の説明会を開いて、本人・家族と情報を共有しつつ計画的に準備を進めるとともに、地域住民との連携を深めた。

6. 苦情・事故

事故2件 珈琲焙煎における火災報知器の作動、利用者の通勤途中における地域住民への迷惑行為によるトラブル。

ヒヤリハット29件、苦情3件

【重点項目】

1. 自主生産品の販売強化、

利用者が2名増え定員25名となりこれまでのグループ編成を見直し新たに自主グループを作り、自主生産品の製造・販売機会の増加、売り上げ強化を図った。自主の売り上げは169万を超え、利用者工賃の確保に大いに貢献した。

2. 工賃向上推進事業を受託

工賃向上推進事業補助金を区から受け、食品乾燥機等の機器を導入した。ドライ野菜を新たに製造し、都立園芸高校と繋がりを持ち、高校で栽培している大蔵大根の規格外品を入手し、工房で切干大根にするプロジェクトを開始した。自主の売り上げは前年より大幅に増加するも利用者が2名増えたこともあり、目標としていた平均工賃15000円までは達成できなかった。

3. 地域交流・グランサマーフェスの開催

地元商店街と福祉施設の協同イベントで上町工房が選ばれ世田谷線つまみぐいウォーキングに参加した。地区社協で行われているサロン活動とも連携し、子ども食堂へ食品の寄付などを行った。8月には2度目の事業所祭グランサマーフェスを実施し、天候にも恵まれ、前年度の反省点を活かした運営ができ、事故なく無事成功に終わらせた。

4. 4つの柱(①働く②健康③仲間作り④余暇支援)で、支援を実施

① 働く＝自主生産品の売り上げは大きく伸びたが支給者数の増加もあり、平均工賃は前年の14765円から約-610円の14155円となった。

	29年度	28年度	27年度	26年度
支給総額	4,218,208	4,090,010	3,592,217	2,959,470
支給者数	298	277	226	222
平均工賃	141,55	14,765	15,764	13,391

② 健康＝日課に体操やストレッチ等の運動の時間、外部講師による3B体操、総福PT指導を組み入れ、身体機能の維持向上や生活習慣病対策を行った。フラダンスの練習は毎朝行った。

③ 仲間作り・余暇支援＝利用者の主体性が発揮できるようクローズアップを取り入れた所内行事を増やし余暇支援を充実させメリハリのある事業所運営を行った。(行事回数32回)

5. 介護等体験学生・インターンシップ学生の受け入れ

開かれた施設、自分たちの支援を常に見られる環境を作り、知的障害に対する理解を深めてもらうことを目的に介護等体験学生や東京都インターンシップ学生の受け入れを行った。

介護等体験学生＝14名 インターンシップ学生＝3名

【その他】

1. 苦情・事故について

29年度は苦情0件、事故報告2件だった。事故内容は車両事故(物損)と、利用者のけが(作業中に包丁で指を切る)

平成 29 年度事業報告

どんぐりホーム上町・短期入所どんぐりホーム上町

【重点項目】

1.GH 利用者生活環境の変化

Aさんは昨年度職場での不適切行為により職場異動となり勤務内容、形態が大きくかわり土曜、日曜が休みになり休日の過ごし方が大きな課題となったが、地域での余暇活動に参加することでこれまでの数パターンの選択肢しかない生活から予定を楽しみにする生活へと大きく変化した。

2.GH 利用者を取り巻く家族環境の変化

入所者家族の問題など家族が利用するサービス機関も含めて連携を取る支援を行った。

通院、服薬、通院ヘルパー手配等、これまで家族が担ってきた健康管理をホームで全面的に支援する体制となった。

3.GH 利用者食事管理・健康管理

9月より健康問題を考慮して低カロリー食の提供に変更した。健康診断で数値の悪化が目立った利用者にかかりつけ医の変更、薬の服薬支援等をおこなった。

4.SS 利用率の増加と人件費の削減

29年度の目標稼働率70%に近い数値となった。利用者の固定化、有期職員も勤務に慣れてきたため常勤職員が遅番勤務に入る体制をとり夜勤者を1名にする日を増やし人件費を削減することが出来た。障害支援区分重度者の受入も年間300日を予定していたところ、372日受け入れら昨年度より26泊増となった。

短期入所どんぐりホーム上町（短期入所）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
利用者数	31	31	30	29	29	34	
サービス提供回数	44	43	45	41	41	45	
内区分4以上重度者	33	32	30	30	28	33	
利用率(%)	73	69	75	66	66	75	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	25	33	35	32	29	30	368
サービス提供回数	37	44	46	36	41	43	506
内区分4以上重度者	28	34	34	29	29	32	372
利用率(%)	60	73	74	58	73	69	69

【その他】

1. 苦情・事故について

両事業を通じて苦情はなかった。

事故は7件起き、夜勤者の連携力不足が原因の事故が多かった。

引継ぎミス・服薬ミス・忘れ物 ヒヤリハットは21件が提出された。

2. 職員に十分な支援力が伴わず人員配置で苦勞を強いられた。

ミーティングや研修を行い支援力の向上に努めたが夜勤スタッフはダブルワークの人が多く出席率も低く、支援力の向上にまでにはならなかった。男性の利用希望者が多いが男性スタッフが少ないためシフト作成には苦勞した。

【 重点項目 】

1. 利用者支援・サービス等

- (1)本場と分室という新体制の初年度、利用者にとって「安全で安心」な環境構築を最優先に、双方の日々の打合せ・連絡を密に実施し整えた。
- (2)面談を通して利用者や家族の要望を把握し、サービス提供に努めた。
- (3)育ててきた仲間関係の広がり、通所の楽しさが増すよう支援した。

2. 関係機関との連携、地域交流等

- (1)利用者の病気に際し、本人及び家族、主治医、担当ケースワーカー等が連携し通所し続けるためのリスクマネジメントを展開した。
- (2)自主生産品の販売、公園清掃、受注加工等の機会が障害理解と地域交流を促進した。また地元での買い物や広報誌の発行等も地道な効果を生んだ。
- (3)実習、体験、見学、ボランティアを積極的に受け入れた。

3. 家庭との連携、家族支援等

- (1)利用者及び家族の高齢化に伴い短期入所施設やG. H. の新設・空き情報を積極的に提供した。また家族の負傷・発病等による短期入所施設の利用やグループホーム入所のケースがあった。

4. 目標工賃達成の取組み他

- (1)世田谷区障害者施設受注拡大・工賃向上推進事業に応募し下記の事項について学ぶ良い機会を得た。職員の意識が高まると共に収入も増えた。

- ・現状の把握と課題
- ・原価率の理解と実践
- ・棚卸
- ・利用者の参加工程
- ・支援の体制と効率(仕事量と時間)

(2)総収入 8,951,265 円 (前年 7,999,436 円 951,829 円増 +11.90%)

- 内訳
- ①自主生産・焼き菓子 7,221,120 円(前年より 827,292 円増)
 - ②受託加工・封入封緘 598,830 円 (前年より 124,537 円増)
 - ③官公需・公園清掃 1,131,315 円(変わらず)

(3)工賃 平均工賃 22,565 円/月 目標工賃 21,000 円

(4)特徴 今年度の総収入が伸びた要因として

- i 町会・学校PTA等の大口注文が増えた。
- ii はっぴいハンドメイドのアンテナショップ・フェリーチェの活用。
- iii 季節差なく、注文が続いた。
- iv 材料の情報は広く入手。極力買置きは控え、無駄を省くよう努めた。

【 その他 】

- (1)苦情 なし
- (2)事故 1件

平成 29 年度事業報告

用賀福祉作業所

事業
評価

【重点項目】

1. 利用者支援・サービス等

[利用率 (昨年度比)] 88.7% (前年比+0.3%)

[平均工賃 (昨年度比)] 14,694 円 (前年比+455 円)

- (1) 利用者のニーズや満足度等を把握するためにアンケートを行い次年度の事業計画に反映させた。
- (2) 前年度に引き続き施設外支援 (所外実習) を実施した。今年度は、2 名の方が挑戦された。また同時に喫茶応援も実施し実習希望者が増えた。
- (3) 受託作業、自主生産品ともに安定したサービス提供や販売が出来た。

2. 関係機関との連携、地域貢献、地域交流

- (1) 地域の町会、商店街等より自主生産 (ステンシル) の大口注文を受注した。
- (2) 玉川支援ねっと主催の研修会に 1 名の職員が参加した。
- (3) 玉川エリア自立支援協議会研修に 1 名の職員が参加した。

3. 家庭との連携、家族支援等

- (1) 家族会は前年度と同じペースで計 7 回行った。(4・5・7・10・12・2・3 月)
また、アンケートを実施し次年度事業計画の参考とした。
- (2) ご本人、ご家族、事業所の 3 者で個別支援計画の話し合いを行うとともに計画・評価の了承を得た。
- (3) 保健センター、グループホームと連携をとり利用者支援の情報共有をした。
- (4) 各サービスの更新等の際、場所の提供や個別にご家族の協力をした。

4. 人材育成、職員研修等

- (1) 年度当初、個別に立てた研修計画に基づいて研修に参加した。
(法人外研修：17 回、20 名参加 法人内研修：5 回、8 名参加)

5. 職場環境の整備、経営基盤の強化、施設整備等

- (1) 職員間での情報の周知、共有を確実に行う仕組みを作るとともに、互いに協力出来る体制の構築を行った。また、自主生産 (フラワーボンボン) のマニュアルを作成した。
- (2) 避難訓練計画の策定、防災備品の充実、福祉避難所の体制整備を行った。
- (3) 防犯対策について
世田谷区障害福祉サービス事業所等防犯設備費補助金にて、防犯カメラ 2 台を設置した。

6. 事故・苦情

- ・事故、苦情ともになかった。

平成 29 年度事業報告

ヘルパーステーション樫の木

事業
評
価

【重点項目】

1. 現在派遣を行っている利用者への支援維持と新規利用者への派遣

(1) ホームヘルプに関しては、現在サービス提供を行なっている利用者の生活を支える事に支障が出ることはなかった。

各家庭の状況変化による追加の依頼や登録ヘルパーの一定期間の休業に対しても、事業所内での調整や家庭との話し合いを深めることで、対応することができた。

新規利用者については相談支援事業所からの依頼もあり、1名の方と契約し定期的な派遣を行なうことができた。

平成 29 年度は短期入所（以下、S・S）が利用しやすい環境が整備された。このため、ご家族の朝の送り出しや準備などの負担が軽減されることから、ホームヘルプの予定日であっても、S・Sを利用するケースが多くあった。ただ、S・Sが必ず利用できる保証がないため、ホームヘルプは提供し続けなければならないサービスと捉え事業展開した。

(2) 昨年度から継続的に行なっている、一人の利用者を複数のヘルパーで支えるため、同行研修や初回訪問などに重点を置き、23組に対して実施した。

集団での活動への参加については、「ブルースター」という個人が行う活動に参加することとし、ヘルパーステーション通信に利用者への周知を図った。掲載に際して、実施時期や実施内容についても「ブルースター」と事業所が連携し、利用者が楽しめる内容を協議して進めた。

新規の利用契約はなかったものの、年間を通した総派遣時間数は 8024.5 時間、延べ利用者数 750 名と、前年比プラス 163.5 時間、+47 名と増加することができた。ただ、報酬単価の低い方への支援が増え、報酬単価の高い重度障害の方への支援が微減したこともあり、事業所への収入としては目標を下回る結果となった。

(3) 「知的障害者移動支援従業者養成研修課程」を計 7 回開講。新たに 67 名の知的ガイドヘルパーを育成した。今年度は研修修了者 6 名と新たにヘルパー契約を結んだ。

また、インターネットを利用した事業所HPの求人に関する掲載方法を改善した。HP からのヘルパー登録については 4 名と新規ヘルパー契約を結び、養成研修と合わせて 10 名の方と新規契約を結んだ。

2. 関係機関との連携、地域交流など

相談支援事業所との連携により、ホームヘルプ 1 名との利用契約を行なった。

知的障害者移動支援従業者養成研修への受講、及びその後のヘルパー登録を周知するため、昭和女子大学と駒沢大学で説明会を行なった。また、地域の児童館や小学校のBOPに対して、研修のポスター掲示等をお願いした。

サービス事業所間のネットワーク構築については十分にできなかった。

3. 人材育成、職員研修など

ホームヘルプ派遣体制の維持とガイドヘルプ派遣の拡大をしていくことに重点を置いたため、研修については必修研修及び受講可能なもの限定して受講した。(年間 8 回)

ホームヘルパーを対象とした注意喚起、技術指導およびスキルアップのための研修を実施した。(注意喚起 4 回・技術指導 5 回・研修 2 回)

【その他】

事故・苦情など

年間を通じて、東京都及び世田谷区に報告する事故・苦情はなかった。

事故 0 件・苦情 3 件・ヒヤリハット 36 件

平成 29 年度事業報告

プレイ&リズム希望丘

事業
評価

【重点項目】

1. 事業別評価

児童発達支援事業は新規契約者も安定しており、延利用人数は前年度比で 79 名増。放課後等デイサービスは新高校一年生の欠席が目立ち、延利用人数は期首予想を上回ったものの、前年度比に対して 266 減となった。夏休みには喜多見夢工房での作業所体験、わくわく祖師谷でのパン作り体験等を企画し、利用した児童・家族からとても好評だった。

2. 地域関係機関との連携

子ども家庭支援センターとの連携 3 ケース、児童相談所との連携 1 ケースとなり、関係者会議を年 2 回開催したほか、保健福祉課とも情報共有をしながら支援を行なった。一方で、放課後等デイサービス事業所の急増からか、例年行なわれていた特別支援学校とのケース会議はなくなり、教育機関との連携は職員が学校公開に参加する時のみとなった。

3. 職場環境改善

事業実態に合わせた変形労働時間制の採用、担当業務の分担、業務量の見直しを行ない、時間外労働の削減に努めた。また、職場環境改善の一環として有給休暇取得の向上に努めた。常勤 4 名の超勤時間は前年度比で 278 時間減、有給取得率は 91%となった。

4. 広報の充実

放課後等デイサービスガイドラインに基づき、広報誌に職員の研修実績を載せるなど部分修正を行なった。また、子ども達の様子を伝えるもの、主として事務連絡を伝えるものと分け、それぞれ隔月での発行に変更した。当初予定していた区民ふれあいフェスタでの作品展示は、改修工事期間と重なった為、砧エリアご地域フォーラムでの発表に変更し、活動の一部をパネルで発表した。

5. 人材育成・職員研修

法人内の階層別研修、新人職員の実務者研修は計画通り参加することが出来たが、下半期の比較的研修を組みやすい時期に改修工事と重なり、予定していた現場研修や自発管研修には参加することが出来なかった。また、報酬改定からみた今後の運営を考える自主勉強会等に参加した。

6. その他

平成 29 年 10 月 16 日から平成 30 年 1 月 22 日の間、世田谷区による建物改修工事を行なった。工事期間中は八幡山 1 丁目 7 番 6 号にて通常通り運営を行なった。改修工事に関しては、子ども達との事前見学、ひとり通所児の支援、保護者・送迎者説明会開催、お知らせ文書の発行等を行ない、スムーズに移行できるよう努めた。

7. 事故・苦情

3 件（児童による他児への他害 1 件・職員の眼鏡等破損 1 件・転倒による足指骨折 1 件）

平成 29 年度事業報告

相談支援センターあい

【重点項目】

1. 契約者の増員

契約者数（世田谷区外 31 名、物故 3 名含む）

（単位：人）

相談支援事業	契約者数 204 (男 127 女 77)	年度当初との差異 (+17)
障害児相談支援事業	契約者数 11 (男 6 女 5)	年度当初との差異 (0)
居宅介護事業	契約者 2 (男 1 女 1)	年度当初との差異 (+1)

平成 29 年度計画新規契約者は 17 名の増員となった。居宅介護は 1 名増員となった。

これに伴い、契約者数全事業合計 217 名となっている。

区分認定調査は 6 月から事業開始で 9 名を行った。

2. 計画作成実績・モニタリング実績の増加

・計画作成実績 172 名（新規、更新含む） 居宅 1 名

・モニタリング実績 394 回 居宅 12 回

通所サービス利用開始が 4 月となり、3 月に受給者証が更新になる方が多く、モニタリング時期の 9 月、3 月が繁忙期となった。特に 3 月は 1 年毎の方のモニタリングが入る為、モニタリング及び計画更新が合わせて 83 件となった。

3. 地域と関係機関の連携及び強化

(1) 世田谷自立支援協議会本会に参画した。

(2) 自立支援協議会虐待防止、差別解消権、利擁護部会の運営委員会と部会に参画した。

(3) 砧エリア自立支援協議会の運営委員会と部会に参画した。

(4) 社会福祉士の実習生を 2 名受け入れ、実習担当者会にも参加した。

これらの会に出席する事で地域の介護保険事業者や、社会福祉協議会等分野が違う方々との関係作りを行った。

【その他】

1. 相談支援事業の現状と今年度の実績

(1) 精神科入院中の利用者 2 名を地域の共同生活援助施設へ移行した。

(2) 精神科入院中の利用者家族に成年後見人申請支援を行い、後見人を付けると共に、世田谷で一人暮らしをする為の準備、支援を行った。

(3) 65 歳を過ぎて共同生活援助を利用されている方の、高齢移行準備として家族に後見人申請の支援を行った。

(4) 居宅介護事業を開始した事で、高齢障害世帯における対応困難事例の親子支援を区より依頼され、対応を行った。

(5) 世田谷区より区分認定調査の委託を受け 6 月より事業を開始し 9 名の調査を行った。

法人内や、あいの利用者を中心に行い、日頃から慣れている調査員が行う事で時間の短縮や、より細かい聞き取りを行う事が出来た。

事業評価